

# 駄菓子屋オバケの弥恵子さん

ク  
ア  
ト  
□

## ■作品概要

△サークル▽

癒し庵もち猫(シナリオ／効果音／音声編集△クアトロ)

△ジャンル／年齢指定▽

バイノーラル音声作品／全年齢

△作品ボリューム▽

**100m 台詞文字数12,800文字**

△舞台▽

**昭和後期／近所の駄菓子屋**

## ■登場人物

△ヒロイン▽

名前    弥恵子(ヤエコ／20歳)

人物    長い髪で目元が隠れていて近所の子供からはオバケと呼ばれている

周りから怖がられている事は認識している／根が暗く内気でボソボソ喋る

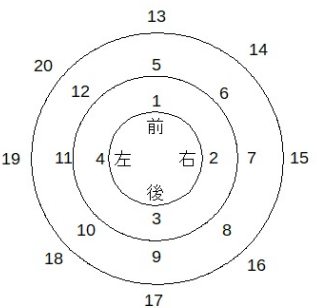
日中は実家である駄菓子屋の店番(みせばん)をしている

弥恵子が怖いせいで売り上げが落ちている

趣味／特技△店番をしながらの読書／妄想

△聴き手▽

少年    △近所に住んでいる小学生(7歳)



△台詞位置の指定図▽

図はマイクとの距離を示しています

1～4は30cm

5～12は50cm

13～20は1mを想定しています

距離が取れない場合、

こちらの音量調整等に対応します

1…近所の駄菓子屋さん（駄菓子屋／午後）2900文字

（戸を開閉する音）

（位置 ㄣ／有声音）

いらっしやいませ…。

（しばらく菓子を選ぶ音と足音）

（弥恵子が本をめくる音）

（弥恵子の元へ近付く足音）

（台にお菓子を置く音）

（位置 ㄣ／有声音／ゆっくりでボソボソとした小声）

あ…、また君…。

ああいえ…、よく来るなあと思ひまして…。

君はその…、私の事…、怖くないんですか…？

はあ…、そうなんですね…。

君は少し…、変わった子…。

だって…、私の噂…、知っているでしょう…？

その…、近所の子供たちからは…、オバケ…、って言われてるんです…。

こんな見た目ですから…、仕方ありません…。

それで…、近所の子供たちは…、ウチのお店に来なくなってしまつて…。

今日だって日曜日なのに…、誰も来なくて暇で…。

ああいけない…、お勘定…。

ひー、ふー、み…。

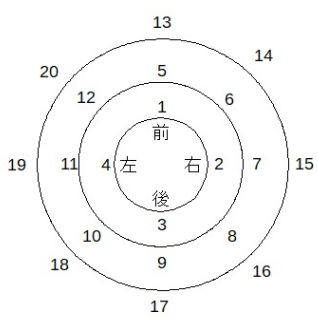
全部で五十円です…。

はい…、ちょうど五十円…。

ん…。

まだなにか用ですか…？

え…、ここで食べる…？



えーつと…、いいんですか…？

その…、私なんかと一緒に居て…、

もし他の子に見られたりしたら…、からかわれますよ…。

何か言われたら…、ぶっ飛ばす…？

あのあの…、乱暴はよくないと思います…。

ですから…、喧嘩はしない…、と約束して下さい…。

はい…。

子供は仲良く元気よく…、が一番です…。

ああそうだ…、買ったお菓子をここで食べる…、でしたっけ…。

って…、もう開けちゃってますね…。

いいですよ…、ゆっくりしていつて下さい…。

あ…、そうだ…。

こつち…、来ませんか…？

だって…、そこだと寒くありません…？

おこたに入って…、暖まりませんか…？

無理に…、とは言いませんが…、暖かいので…。

はい…。

では…、こちらへ…。

(足音とこたつに入る音)

(位置／有声音／ボソボソとした小声)

どう…、ですか…？

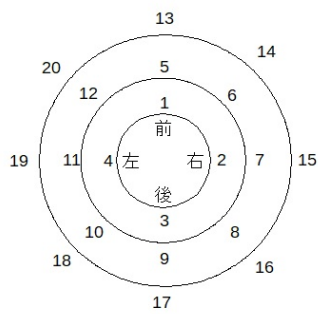
暖かい…、でしょう…？

そう…、よかった…。

不思議ですよね…。

電気だけで…、こんなに暖かくなるだなんて…。

便利な世の中になりましたね…。



あの…、私の話…、聞いていますか…？

はあ…、よく分からない…、ですか…。

ああ、いいんです…。

こんなつまらない話よりも…、駄菓子の方が大事ですよね…。

で…、あの…。

君は私の事を怖くない…、そう言いましたけど…、それは本当ですか…？

そう…、なんですね…。

ええと…、他の子たちは…、私を見るなり逃げてしまうものですから…。

君みたいに人懐っこい子は…、なんだか変な感じがします…。

ああいえ…、嫌ではないんです…。

むしろ嬉しい…、です…。

オバケ…、なんて噂されていますけど…、私は人…。

悪く言われるのは慣れていますが…、それなりに傷付きますから…。

(立ち上がる音と足音)

(位置／有声音／ゆっくりとボソボソとした小声)

ん…？

どうしたんですか…？

(弥恵子の頭を撫でる音)

ちよつと…、頭…。

やめて下さい…。

え…？

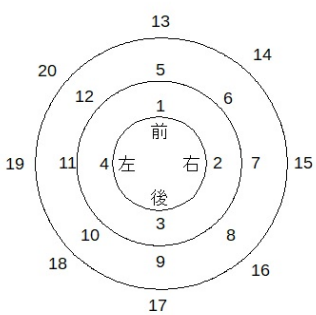
いい子いい子…？

はあ…、君に慰められるだなんて…、なんだか情けない…。

でも嬉しい…。

だって…、誰かに優しくされるなんて…、久しぶりですから…。

(驚いたという風に)



あっ！

ちよつとっ！

前髪は駄目っ！

触らないでっ！

(ここまで驚いたという風に)

見ました…？

私の目…、見ました…？

見たんですね…。

(ため息) はあ…。

私…、人と目を合わせるのが…、凄く苦手で…、怖くて…。

それで前髪もこんなに伸ばして…、人と目が合わない様になっているんです…。  
それなのに君は…。

え…？

可愛い…かった…？

じよじよ、冗談は…、よしてください…。

い、いい加減な事を言つと…、私だって怒りますよ…。

へ…？

本気…？

そ、そう…、ですか…。

ええと…、ありがとう…、いざいます…。

(位置 3 / 有声音 / ゆっくりとボソボソとした小声)

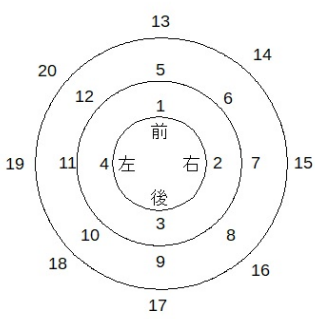
(弥恵子の膝に座る音)

あっ、ちよつと…。

こんな所に座って…。

だって…、私の膝…。

え…、ここに居たいんですか…？



つくづく君は…、変わった子ですね…。

だって…、他の子たちは怖がって逃げるくらいなのに…、君ったら…。まあ君がそうしたいって言うんでしたら…、私は構いませんが…。

（駄菓子の包みを開ける音）

（位置ヤ／有声音／ゆっくりとボソボソとした小声）

あ…、当たり…。

しかも五十円…。

今からでも交換出来ますけど…、どうします…？

そう…、次まで取っておくんですね…。

君は欲張らなくて偉いですね…。

ええ…、計画的に次に回す…、食べ盛りの子には中々出来ない事です。

はい…、いい子偉い子お利口さん…、です…。

（位置〜／有声音／ゆっくりとボソボソとした小声）

あれ…？

私…、君と普通に話せてますね…。

いつもでしたら…、緊張してしまって…、言葉が出てこないんですけど…。

それに…、こんなにも喋ったのは…、いつ以来でしょうか…。

ふう…、もう覚えていませんね…。

学生時代も…、お友達は居ませんでしたし…。

話すとしたら…、独り言ばかりでした…。

そんな私ですから…、趣味は読書…、ただそれだけ…。

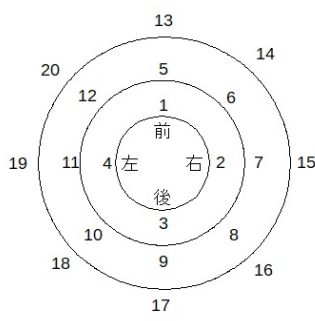
君は…？

本…、好き…？

そう…、よかった…。

本はいいですよね…。

文字を読み取る事で…、その場その場のシーンが思い浮かんで…、



まるでその世界に入り込んだ気分になれる…。

(位置／有声音／ゆっくりとボソボソとした小声)

君はどういう本が好きなんですか…？

そう…、動物や昆虫の…。

ふふっ♪

男の子らしいですね…♪

え…？

初めて笑った…？

私が…？

ああ…、そっか…。

私…、話す事も笑う事も…、忘れてしまっていたんですね…。

君は凄いですね…。

まるでヒーローみたいです…。

え…、だって…、こんな私を恐れず…、

話を聞いてくれて…、笑顔にさせてくれた…。

ですから君は私のヒーローです…。

(位置／有声音／ゆっくりとボソボソとした小声)

そんな凄い凄いヒーローさん…、頭なでなで…、してもいいですか…？

特に理由はありませんが…、なんとなく…、そうしたい気分なんです…。

ふふっ♪

言ってくれますね…。

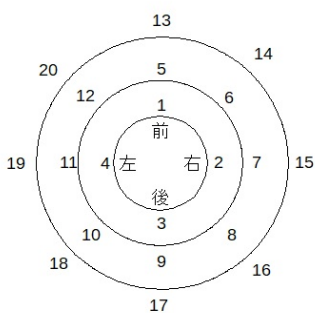
したいならいいよ…、ですか…。

ではお言葉に甘えて…。

なで…、なで…。

なで…、なで…。

まんざらでもない…、そんな顔…。





なで…、なで…。

なで…、なで…。

あら…？

お耳が赤いですけど…、照れているんですか…？

何も言わないって事は…、そうなんですわ…。

可愛い…。

いいじゃないですか…。

可愛いものは可愛いんです♪

え…？

ヒーローなら…、カッコいいの方がいい…？

んー…、確かにそうですね…。

では…、カッコいい…、です♪

カッコいいヒーローさんに…、なで…、なで…。

なで…、なで…。

ふふっ♪

満足そうなお顔…。

(位置2／有声音／ゆっくりとボソボソとした小声)

ああ…、そうだ…。

今さらかもしれませんが…、自己紹介しませんか…？

ええ…。

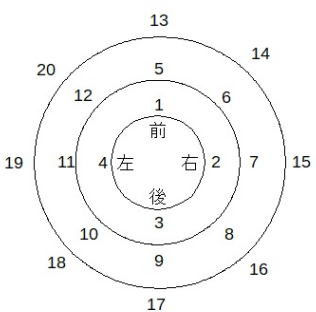
こうして…、その…、仲良くなれた…？

のですから…。

はい…。

では私から…。

名前は弥恵子…。



君にどう見えているか…、分かりませんが…、ハタチです…。

ああ…。

ハタチは二十歳（にじゅっさい）の事ですょ…。

趣味は…、この通り読書…。

それ以外は…、あー…、特にありませんね…。

私から提案しておいて…、大して紹介する事がなくてごめんなさい…。

あ…、はい…。

よろしく…、お願いします…。

次は…、君の番ですよ…。

（相槌） ええ…。

へえ…。

でしたら…、いまくらいが一番楽しい時期ですね♪

学校…、楽しいですか…？

（相槌） ええ…。

（相槌） ええ…。

成程…。

それはよかったです♪

私は…、学生時代に…、あまりいい思い出がありませんから…。

君にはいい思い出を…、たくさん作って欲しいものです…。

ああいえ…。

押し付けるつもりはないので…、いままで通り…、元氣に通って下さい♪

はい♪

お返事出来て…、偉い…、偉い…。

なで…、なで…。

なで…、なで…。

（位置々／有声音／ゆっくりとボソボソとした小声）

あ…、もう直ぐ四時ですね…。

そろそろ帰らなくていいんですか…？

はい…、残ったお菓子は袋に入れましょうね…。

あ、そうだ…、当たり券…。

そう…、五十円の…。

本当…？

また来てくれるんですね♪

はい…、お待ちしています…。

では…、よい子は暗くなる前に帰りましょうね♪

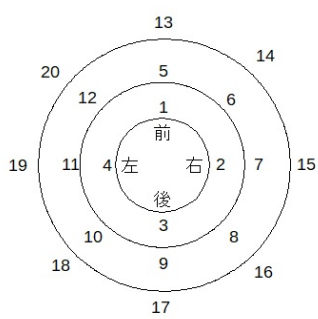
そうだ…、送って行きましょうか…？

あ…、私なんかと一緒に居るのを見られたら…。

あ、いいえ…、やめておきましょう…。

いまのは聞かなかった事にして下さい…。

ええ…、では…、お氣をつけて…。



2…駄菓子屋さんと耳かき（駄菓子屋／午後）3713文字

（戸を開閉する音）

（位置 14／有声音）

いらっしやいませ…。

（足音）

（位置 5／有声音／ゆっくりでボソボソとした小声）

やっぱり君…。

ああいえ…、超能力じゃないですよ…。

だって、他の子はまず来ないですし…、来るとしたら君になって…。

いえその…、ですから超能力ではなくて…。

(ため息) はあ…。

そんなに目をキラキラさせて…。

まあいいでしょう…。

今さら私に新しい噂が立っても…、問題ない…、はずです…。

え…？

ああはい…。

上がっても構いませんよ…。

(上がってこたつに入る音)

(位置／有声音／ゆっくりとボソボソとした小声)

ふふっ♪

あれから何度か…、こうしていますね…。

なんだか…、歳の離れた弟が出来たみたい…。

あ…、ごめんなさい…。

私なんかこんな事を言われたら…、迷惑ですよね…。

え…？

うれ…、しい…？

本当…、ですか…？

そう…、嬉しい…、ですか…。

それでその…、今日来た目的は…、お耳掃除で合ってますか…？  
やっぱり♪

あー…、ですから…、超能力ではありませんって…。

だって君…、来る度にお耳掃除してーって言うんですもん…。

あ…、嫌ではないんですよ…。

むしろこちらこそ…、ご馳走様という感じなので…。

しまっ…。

いえ…、深い意味はないので…、気にしないで下さい…。

ほら…、そこに居たら耳かき出来ないでしょう…？  
さあさあ…、こちらへ…。

(足音と膝に寝転がる音)

(位置〽有声音〽ゆっくりとボソボソとしたかなり小声)

ふふっ♪

もうすっかり慣れたものですね…。

ああ…、いいんです…。

君はここが落ち着く…、そうでしょう…？

ふふっ♪

よく分かっていますよ♪

では早速…、やっていきましようか…。

んー…、前回やってから…、そんなに日が経ってませんから…、

余り汚れてはいませんね…。

あ…、ありました♪

カリ…、カリ…。

こしょ…、こしょ…。

カリ…、カリ…。

こしょ…、こしょ…。

(耳ふー) ふー…。

あ…、痛かったら直ぐに言って下さいね…。

え…、我慢できる…？

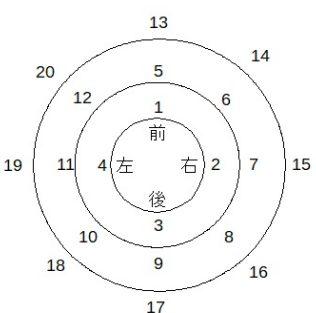
えっと…、我慢出来てとても偉いですが…、

もしお耳が傷付いてしまつてはいけません…。

ですから…、痛かったらちゃんという事…。

いいですね…？

はい…、お利口さんです♪



勿論私も…、慎重にやっていきますから…、安心して下さい…？

カリ…、カリ…。

こしよ…、こしよ…。

カリ…、カリ…。

こしよ…、こしよ…。

(耳ふー) ふー…。

ねえ…、お耳掃除するの…、これで五回目くらい…、でしたっけ…。

そんなにこれが気持ちいいんですか…？

へえ…、そうなんですネ…。

カリ…、カリ…。

カリ…、カリ…。

(耳ふー) ふー…。

こしよ…、こしよ…。

こしよ…、こしよ…。

(耳ふー) ふー…。

最初は驚いたんですよ…？

突然…、膝枕してって言い出すんですもん…。

ああでも…、嫌ではなかったんです…。

むしろ私なんか懐く子が居る…、と言う事が嬉しかった…。

そうしたら君…、耳かきもして欲しいって…。

しかも、あんな顔で頼まれたら…、断れません…。

甘える様な…、懇願するような表情…。

君はズルいです…。

少なくとも私には…、断れない理由が出来てしまったんですから…。

え…？

それはヒミツ…、です♪

でも、どうしてお耳掃除だったんです…？

おうちでお母さんにやってもらえるでしょう…？

えっ…。

そう…、だったんですね…。

ごめんなさい…、私…、知らなくて…。

えっと…、続き…、しましうね…。

(少しの間無言)

あの…、さっきの話…、気にしてますか…？

そう…、ですか…。

君は強い子ですね…。

流石ヒーローです…。

悲しい過去を持ったヒーロー…。

こう言う時くらい…、甘えていいんですからね…。

私がたつぷり甘やかしてあげますから…。

なーんて…、私なんかに言われても…、嬉しくないですよ…。

え…？

嬉しい…？

そうなんです…。

あの…、気になっていたんですけど…。

お耳掃除をしていると…、いつもチラチラとこちらを見えていますよね…？

何か気になる事でもあるんですか…？

へ…？

私の目が…、綺麗…？

えっと…、その…、冗談はやめて下さい…。

いくら君だからって…、言っていない冗談と…、そうでない冗談が…。

え…。

ホン…、キ…？

あの…、あー…、ちょっと待ってもらえますか…？

(深呼吸) すー…、ふー…、すー…、ふー…。

すみません…、完全に油断していました…。

あ、いえ…、こちらの話です…。

そう…、私の目が綺麗…、ですか…。

初めて言われました…。

(眩く様に) それも君に…。

あの…、もっと見たい…、ですか…？

私…、君になら…、勇気を出してみてもいいかなって…、思ったり…。

そう…、ですか…。

無理しなくていい…、か…。

言ってくれますね…。

つくづく君はヒーローです…。

さて…、ヒーローさん…、お次は梵天でフワフワしましょうね♪

ふふっ♪

嬉しそうな顔…。

こう言う所は…、まだまだ年相応って感じですね…。

ああ…、難しい事は分からなくてもいいんです…。

そうです…。

じゃあやっていきますね…。

ふーわ…、ふーわ…、ふーわ…、ふーわ…。

(耳ふー) ふー…。

こじょこじょ…、こじょ…、こじょ…。

(耳ふー) ふー…。

ふわ…、ふわ…、ふわ…、ふわ…。



(耳ふー) ふっふっ…、ふっふっ…。

どうです…？

綺麗になりましたかー？

え…、もうちよつと…？

いいですよ♪

ふわっ…、ふわっ…、ふわっ…、ふわっ…。

(耳ふー) ふー…、ふー…。

こーしょ…、こーしょ…、こーしょ…、こーしょ…。

(耳ふー) ふっふー…、ふっふー…。

ふわふわ…、こしょこしょ…、ふわふわ…、こしょこしょ…。

(耳ふー) ふー…ふっふっ…、ふー…。

はーい、綺麗になりましたよ…。

分かってます♪

反対ですよね♪

じゃあゴロンとして下さいねー…。

(寝返りの音)

(位置々／有声音／ゆっくりとボソボソとしたかなり小声)

はーい…、言う事が聞けて偉いですね♪

こっちもお耳掃除しましょうね…。

えーつと…、こちらそんなに汚れてはいませんね…。

ふふっ♪

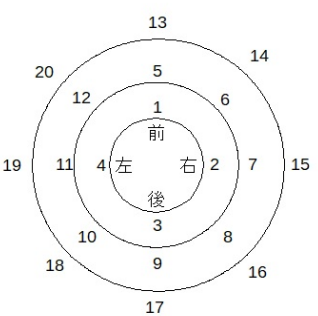
心配しなくても…、ちゃんと言ってあげますっ♪

はーい…、じゃあ動かないで下さいね…。

カリ…、カリ…。

こしょ…、こしょ…。

カリ…、カリ…。



こしょ…、こしょ…。

(耳ふー) ふー…。

どうですか…？

そう…、よかった…。

え…？

なんですか…？

最近…、よく笑う…？

私が…？

そ、そうですか…？

えっと…、その…、笑ってる私…、気持ち悪くありません…？

気持ち悪かったら…、控えます…。

かわ…、いい…？

またそんな事を言つて…。

まあでも…、可愛いと言われて…、悪い気はしません…。

もっと笑顔に…？

君が…、させてくれるんですか…？

言つてくれますね…。

ふふっ♪

じゃあ…、よろしくお願いします…、ヒーローさん…。

(少しの間無言)

それにしても…、私はオバケと噂されている…。

その上でこうして会っていますけど…、他の子からかわれてません…？

私…、余り外に出ないですし…、そういった事情にも疎くて…。

もし君が変な風に言われていたら…、悲しいです…。

平気…？

そう言つて事は…、なにかされたんですか…？

駄菓子屋のオバケと…、付き合ってる…？

そう言われたんですか…？

そんな…、ひどい…。

やはり私とこうして仲良くするのは…、よくないのかも…。

だって…、君が傷付くのは…、見過ごせません…。

その…、私とこうして会うの…、やめに…、します…？

やめない…？

でもまたひどい事…、言われるかもしれませんが…。

え…？

別にいいって…、私と付き合っている…、そう言われてもいいと…？

私が言うのも間違っているかもしれませんが…、君は変わった子ですね…。

あ…、そうだ…。

以前は何か言われたら…、ぶっ飛ばす…、そう言っていましたよね…。

でも喧嘩は駄目…。

そう約束もしました…。

手…、出してないですよ…？

(安堵した感じで) そう…。

約束を守れて偉い偉いです…。

カリ…、カリ…。

こしょ…、こしょ…。

カリ…、カリ…。

こしょ…、こしょ…。

(耳ふー) ふー…。

(呟く様に) 君と付き合っている…、つか…。

ああいえ…、なんでもありません…。

もしその噂…、嫌だったらいつでも言っておきな…。

あー…、特になにが出来る…、という訳ではありません…。  
でも…、君が傷付くなら…、苦しいなら…、守ってあげますから…。  
任せて下さい…。

その時は…、私から離れます…。

え…？

駄目…？

そんな顔で言われても…、私が困ってしまいます…。

うーん…、ではどうすればいいんでしょう…。

あつ、そうだつ。

君と私で…、戦隊を組みませんか…？

そう…、ヒーロー戦隊です♪

どんなヒーローだって…、一人では戦えないでしょう…？

仲間が居て…、一緒に戦い…、助け合う…。

どうです…？

面白そうじゃありませんか…？

決まりですね♪

はい…、よろしくお願いします♪

あ…、念を押しますけど…、喧嘩は駄目ですよ…？

はい…、なにかあったら私に相談して下さい…。

そして話し合いで解決出来る様…、一緒に考えましょう…。

いいですね…？

はい…、いい返事です♪

ではこちらも梵天しましょうね♪

ふわ…、ふわ…、ふわ…、ふわ…。

(耳ふー) ふっふっ…。

じーしょ…、じーしょ…、じーしょー…。

(耳ふー) ふー…。

ふーわ…、ふーわ…、ふわふわー…。

(耳ふー) ふっふー…、ふっふー…。

ふっふっ♪

もう少しやって欲しいんですよね…？

任せて下さい♪

君の事はお見通し…、です♪

ふわっ…、ふわー…、ふわっ…、ふわー…。

(耳ふー) ふー…。

こしょ…、こしょ…、こしょ…、こしょ…。

(耳ふー) ふー…、ふー…。

ふわふわ…、こしょこしょ…、ふわこしょ…。

(耳ふー) ふー…。

はい…、おしまいです♪

とーっても綺麗になりました♪

(位置々でマイクと反対を向いて／有声音／かなり小声)

えーっと…、まだ夕方までは時間がありますね…。

(位置々／有声音／ゆっくりとボソボソとしたかなり小声)

どうします…？

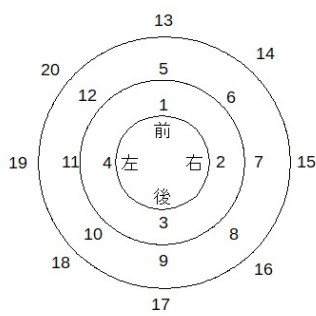
またお昼寝…、していきます…？

はい、決まりですね♪

ああ…、どこへも行きませんから…、大丈夫ですよ…。

(位置々／無声音／囁き)

お休み下さい…、私のヒーローさん…♪



### 3..駄菓子屋さんとお化粧（駄菓子屋／午後）493文字

（戸を開閉する音）

（位置 ㄣ／有声音）

いらっしやいませ…。

（足音）

（位置 ㄣ／有声音／ゆっくりでボソボソとした小声）

ふふっ♪

ああいえ…、もう完全にウチの子みたいだなんて思いまして…。

こうしておこたに入って…、何気ない時間を過ごすのが当たり前…。

君は…、退屈じゃないんですか…？

そう…。

ならいいんですけど…。

ん…。

ねえ…。

なにか気付く事…、ありませんか…？

ほら…、いつもの私となにか違う…、みたいな…。

よく見て下さい…？

ジ…。

（位置 ㄣ／有声音／ゆっくりでボソボソとしたかなり小声）

ほら…、こっちです…。

しっかりと私を…、見て下さい…？

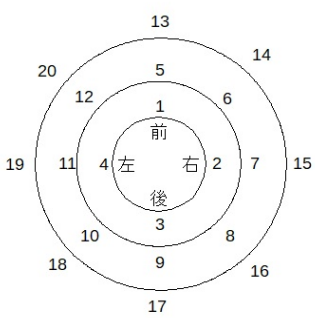
ジ…。

おや…？

気付き…、ましたか…？

（位置 ㄣ／有声音／ゆっくりでボソボソとした小声）

そうです…。



お化粧♪

私…、最近になってお化粧に興味が出て来たんです♪

それで…、君にも…、見てもらいたくなって思いました…。

今日は君が来るって分かっていましたから…、それでお化粧を…。

どう…、です…？

変じゃないですか…？

本当…？

(安堵と言った感じで) よかった…。

私…、いままでお化粧には…、まったく興味ありませんでした…。

だって…、私なんかがお化粧しても…、見せる相手も居ないんですもん…。

でもその…、私も女性ですし…？

綺麗になりたいという願望がない訳ではありません…。

それでその…、母のお化粧を貸してもらったんです…。

君に…、一番に君に見て欲しかったので…、褒めてくれてよかった…。

へ…？

毎日…？

お化粧を…？

え…、でももし外で誰かに見られたら…、オバケがお化粧しているって…、  
からかわれるに決まっています…。

そう考えると…、やはりこれで外に出るのは…。

美人…？

えっと…、私が…？

またそういう冗談を言って…。

本気…？

そう…、なんですネ…。

ありがとうございます…、ございます…。

なんだか照れますね…。

でも嬉しい…。

(**眩く様に**) それが君だから尚更…。

ああいえ…、気にしないで下さい…。

うーん…、でもやはり外に出るには…、勇気が要ります…。

それに今のお化粧は…、見様見真似ですから…、

他人(ひと)には見せられません…。

ああ…、君は特別です…。

そう…、私にとっては…、君はトクベツ♪

あ…、いい事を思い付きました…。

外に出るかどうかはともかく…、お化粧をもっと練習しようと思うんです…。

ね…、いい考えでしょう…？

そしてもう一つ…、いい考えがあるんです…。

それはですね…。

君にお化粧をして…、それで練習させてくれませんか…？

恥ずかしい…？

いいじゃないですか…。

他の誰かに見せる訳でもありませんし…。

もし失敗しても…、笑ったりしませんから…。

ね…、ヒーローさん…。

お願いします…。

私を助けると思っ…、この通りです…。

私たち…、ヒーロー戦隊の仲間でしょう…？

ね…？

いいんですか♪

よかった…。



お化粧は先程したばかりですから…、ここにまだあるんです…。

(化粧箱を開ける音)

(位置ノ有声音ノゆっくりでボソボソとしたかなり小声)

ほら…。

たくさん種類があるでしょう…？

これら一つ一つに役割があるんです…。

で…、使う順番も決まっているんですって…。

私…、全然知りませんでしたから…、母に聞いて…、

手順を教えてくださいました♪

まず最初はですね…、汗や油分(ゆぶん)といった汚れを落とすんです…。

本来は洗顔でしっかりと綺麗にするんですが…

今は練習ですので…、濡れたハンカチで代用しましょう…。

と言う訳で…、じゃーん…。

濡らしたハンカチ♪

準備がいいでしょう…？

君なら練習させてくれるって信じていましたから…、用意していたんです…。

少しヒンヤリしますが…、我慢して下さいね…。

ごじ…、ごじ…、ごじ…、ごじ…。

あはっ♪

冷たいですね…、ごめんなさい…。

でもお顔が汚れていると…、お化粧ノリも持ちもよくないんですって…。

ですからここは入念に…。

拭き…、拭き…、拭き…、拭き…。

ああでも…、擦り過ぎてもお肌を傷付けてしまいますので…、程々に…。

さっ…、さっ…、さっ…、さっ…。

うん…、これくらいでしょうか…。

次は…、ああこれっ…。

化粧水です…。

これはお肌に水分を与えて…、潤いを持たせる効果があるんですって…。

君は…、元々お肌が綺麗ですから…、要らないかもしれませんね…。

ですがこれも練習…。

教えてもらった通りにやっていきましょう…。

手に化粧水を取って…、両手に馴染ませる…。

そうしたら…、トントンと軽く押し込む様に…、お肌に馴染ませます…。

トントン…、トントン…。

どうですか…？

いつもと違います…？

チカラがみなぎってきた…？

もう…、そういう効果はありませんっ…。

直ぐにふざけるんですから…。

トントン…、トントン…。

あ、ほら…。

段々とお肌がモチモチになってきたの…、分かります…？

ね…？

凄いでしょ…？

モチモチ…、モチモチ…。

っ…。

これくらい…、でしょうか…？

はい次です…。

(**眩く様に**) 化粧水の次は…、乳液でしたね…。

乳液は…、化粧水で得た水分を…、維持してくれる役割があるんですって…。

モチモチ肌がずっと続く…、という事です♪

では乳液をお肌に馴染ませていきますね…。

さつきとは違って…、クリーム状ですからね…。

しっかりと延ばしながら…。

お顔全体を包み込む様に…。

塗り…、塗り…、塗り…、塗り…。

なるべく薄く…、着け過ぎない様に…。

ペタ…、ペタ…、ペタ…、ペタ…。

うーん…、そろそろでしょうか…。

ねえ…、触ってみて下さい♪

どうです…？

でしょう…？

ツヤツヤのプルンっ…、です♪

まるで赤ちゃんみたいです…♪

え…？

赤ちゃんじゃない…？

ああ…、例えですよ、例え…。

ちゃんと知っていますよ…。

君はヒーローだって…。

さあ…、ヒーローさん♪

次はいよいよファンデーションです♪

これぞお化粧って感じがしてきませんか？

ふむ…、君にはピンと来ませんか…。

まあいいでしょう…。

あくまでこれは…、私のための練習ですからね♪

はい…、ではファンデーションを…。

この「パフ」というスポンジに…、少量だけ取ります…。

ポンポンポン…。

これくらいでいいでしょうか…。

ではこれを…、先ずこちらの頬から…。

これも均一に…、ムラが出来ない様にします…。

ポンポンポン…。

小鼻の際は…、パフの角を使って…。

いい感じです♪

そのままこちらのおでこも…。

ポンポンポン…。

よし…。

では反対のお顔ですね…。

ファンデーションを付け直して…。

こちら頬から先に…。

ポンポンポン…。

小鼻と鼻筋も忘れずに…。

最後にこちらのおでこを…。

ポンポンポン…。

よしっ♪

中々いいんじゃないでしょうか…。

これでお顔全体が整いました♪

続いて部分的にお化粧をしていきますよ…。

え…？

ええ…、まだまだこれからです♪

長い…？

仕方ありません…。

私が慣れていないのもありますが…、お化粧は時間のかかるものなんです…。

ですから…、もう少し我慢、我慢…、です♪

では…、目元のお化粧をしていきましようか…。

使うのはこれです♪

アイシャドー♪

これを使う事で…、目元が一気に華やかになるんですよ♪

何色がいいですか…？

好きなのを塗ってあげます♪

これですね…？

流石は男の子…。

やっぱり青が好きなんですね♪

じゃあこれを…、筆に取って…。

まぶたに塗っていくので…、目を閉じてもらえますか…？

はい…、怖くないですからね…。

サツ…、サツ…。

これは均一ではなく…、濃淡が出る様に…。

サツ…、サツ…。

うーん…、一端目を開けてもらえますか…？

わあ…、かわ…、カッコいいっ♪

まるでロックスターみたいです…♪

ええ…？

カッコいいって言いましたよ…？

それに…、君は知らないかもしれませんが…、

昔は男性もお化粧をしていたんですよ…？

本当です…。

ものすごく昔から…、お化粧は男女関係なく…、親しまれてきたんです…。  
ですから…、いま君がお化粧している事も…、変じゃないんですよ…？

分からなくても…、知ってもらえればそれでいいんです…。

って…、私も最近調べて知ったばかりなんですけどね…、あはは…。

さて…、アイシャドーの次はマスカラです♪

これで…、まつ毛を多く、太く見せる事がきるんです…。

っと…、その前に…、これです♪

ビューラーと言って…、まつ毛を上向きに整えてくれる、優れものです♪

また目を閉じてもらえますか…？

はい…。

これでまつ毛をくいつ…。

こつちもチカラを入れ過ぎないように…、くいつ…。

うん♪

ではマスカラです…。

目を開けて下さいねー…。

はい…。

ではマスカラを…、ダマにならない様に…。

シュシュシュツ…。

こちらも…、シュシュシュツ…。

わー…、凄いつ…。

演劇のステージに出てきそうなお顔になってきましたよ…♪

もう少しで終わりますからねー…。

次はチークです♪

ほら…、女性で頬を赤くお化粧しているの…、見た事ありませんか…？

そう…、あれです…。

これは塗り過ぎると…、酔っ払いさんみたいになってしまうので注意です…。  
気を付けないといけませんね…。

ではこの…、大きめの筆で塗っていきます…。

筆に着け過ぎない様に…。

よし…。

そうしたら頬を撫でる様に…。

フワッ…、フワッ…、フワッ…。

反対側も…、フワッ…、フワッ…、フワッ…。

うん…、健康的でいい感じになってます♪

さて…、いよいよ最後です…。

最後は…、これ…。

そう…。

口紅です…。

お化粧…、と言ったらこれと言った感じですよ…。

口紅は…、母がこれ一色しか持っていないので…、このオレンジ系ので…。

真っ赤なのを予想していました…？

やっぱりそうですよね…。

でも口紅って色んな色があって、肌や服装に合った色を選ぶんですって…。

母はそういうのに無頓着らしくて…。

それでこの一色だけ…。

でも塗ってみると自然な色合いで…、肌に馴染むなーって思うはずですよ♪

では塗っていきましょう…。

少し口を開けてもらえますか…？

ええ…、それくらいで…。

すーっ…、すーっ…。

下側も…、すーっ…、すーっ…。

少し指で馴染ませますね…。

すっ…、すっ…、すっ…。

よーしっ、完成っ♪

では鏡を…。

ジャーン♪

お化粧した自分のお顔…、どうですか…？

えー…、変…？

そうでしょうかー…。

私はかわ…、カッコいいと思いますけど…。

本当です…。

本当にそう思っています…。

え…？

お化粧を取りたい…？

もうですか…？

もうちょっとそのままいませんか…？

その…、もう少し見ていたいです…。

駄目でしょうか…？

いいんですね♪

トクベツ…？

ふふっ♪

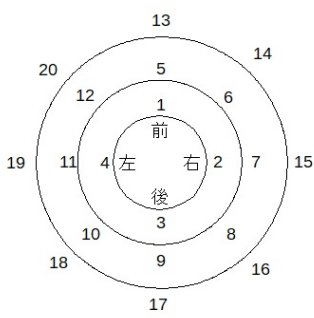
そうですか…、私は「特別」ですか…。

嬉しいですね…。

ああ…、大丈夫ですって…。

あとでちゃんと綺麗に落としてあげますから…。

それまでは…、じっくり見させて下さい♪





#### 4…駄菓子屋さんとお散歩（駄菓子屋／午前）2170文字

（戸を開閉する音）

（位置↷／有声音／ゆっくりでボソボソとした小声）

あ…、来ましたね…。

えっと…、身の周りの準備は出来ています…。

ですが…、心の準備がまだ…。

本当にお散歩…、行くんですか…？

他の子や…、近所の人に見られるかもしれないのに…？

そう…、ですか…。

君は簡単に言いますけど…、私にとっては…、

とても勇気の要る事なんです…。

それに…、私だけでなく…、君にまで悪い影響があるかもしれないと…、

そう思ってしまうんです…。

任せろ…？

随分自信ありげですね…。

君はどんな時でも強い子…。

ふふっ♪

なんだか私も…、少し勇気が出てきました…。

ええ…、では…、行きましょうか…。

（駄菓子屋から出る音）

（位置↷／有声音／ゆっくりでボソボソとした小声）

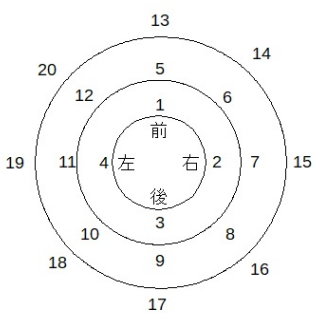
（深呼吸）すー…、ふうー…。

外に…、出ましたね…。

ああ、確かに。

まだお店の前ですね…。

え…？



連れて行ってくれるんですか…？  
えっと…、ではお願いします…。  
はい…、手を…。

### (二人の足音)

あの…、大丈夫でしょうか…？  
周りに人…、居ません…？  
誰かに見られていません…？  
ああ…、どうしましょう…。  
考えたら…、怖くなってきました…。  
やつぱり…、引き返しませんか…？

### (位置)でマイクと反対に向いて／有声音／ゆっくりでボソボソとした小声)

ほら…、まだウチのお店が見えていますし…。

### (位置)／有声音／ゆっくりでボソボソとした小声)

ああ…、ちよつと…。  
あまり強く引つ張らないで下さい…。  
大丈夫って…。

君は平気でも…、私にとってはほぼ学生時代ぶりの外出なんです…。

口から心臓が飛び出してしまいう…。

それくらいドキドキしています…。

あっ！

あそこ…。

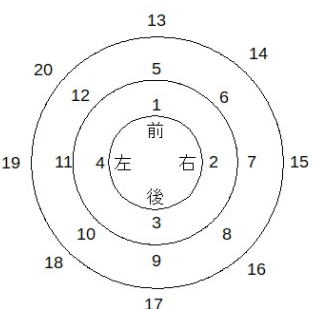
人が居ませんか…？

居ますよね…。

しかもこのまま進んだら…、すれ違っんじゃないでしょうか…。

ひ、引き返しましょうっ！

そ、それともどこか隠れる場所…、はありませんね…。



はわわ…、もう直ぐそこです…。

(位置2／無声音／囁き)

どうしましょう…。

こ、こんにちはって…、挨拶されてます…。

これって…、私にでしょうか…、それとも君に…？

えーっと…、お返事しないといけない…。

え…？

「こんにちは」だけでいい…？

そう…、なんですか…？

えっと…、じゃあ…、言ってみます…。

(位置1／有声音／小声／上ずった声で)

こ、こ…、こんにちはっ！

(位置1／有声音／ゆっくりでボソボソとした小声)

あれ…？

行っちゃいました…。

変な風に思われなかったんでしょうか…？

(位置5／有声音／ゆっくりでボソボソとした小声)

それに君…、「美人さんと歩いとるなって…。」って言われて…。

美人さんって…、私…？

いえいえ…、そんなはずはありません…。

だって…、私なんか…。

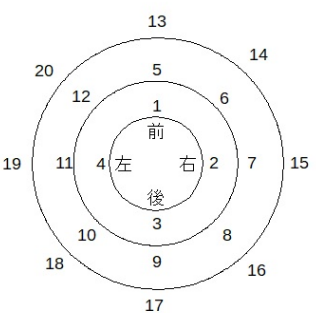
え…？

はあ…、確かに私しか居ませんけど…。

という事は…、やはり私に…？

美人…。

オバケ…、なんて言われていた私が…？



嘘みたい…。

「な？」って…。

もう…、分かった様な事を言っ…。

でも君には…、感謝しないといけませんね…。

ありがとう…、ヒーローさん♪

あっ！

こ、今度は子供たちがこちらに向かってきています…。

今度こそマズいです…。

色々言われるに決まっています…。

どうします…？

ここから逃げますか…？

(位置∞／有声音／ゆっくりでボソボソとした小声)

あ、ちよつと…、引っ張らないで下さい…。

このままだと子供たちに鉢合わせて…。

あ…。

(位置5／有声音／ゆっくりでボソボソとした小声)

あの…、ちよつと…。

君…、助けて下さい…。

囲まれてしまいました…。

え…？

綺麗…？

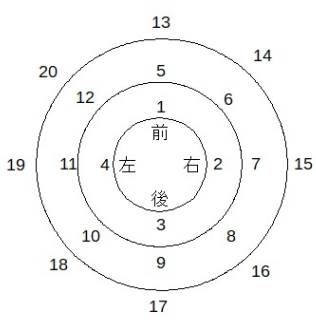
私の事ですか…？

そ、そんな君たち…、冗談はやめて下さい…。

へ…？

付き合っている…？

私とこの子が…？



えっと…、誤解ですっ…。

そ、そういうのじゃありませんっ…。

私たちは…、あー…、ヒーロー戦隊の仲間ですっ…。

仲間に…、入りたい…？

ちょ、ちょっと待って下さい…。

き、君…、ニヤニヤ見ていないで…、助けて下さいよー…。

え…？

私ですか…？

私は…、その…、駄菓子屋の…。

やはり驚きますよね…。

オバケ…、そう言われているんですから…。

な、何で君たちが謝るんです…？

(相槌) ええ…。

(相槌) ええ…。

はあ…、つまり、噂だけで怖がっていた…、そういうことです…？

ああいえ…、いいんです…。

噂って言うのは…、思いの外、広がりやすいですから…。

それに…、君たちくらい子でしたら…、怖がるのも当然…。

ですから…、そんなに謝らないで下さい…？

え…？

今度お店に来てくれるんですか…？

そう…、ではお待ちしていますね♪

はい…。

わっ！

ちょっと君たち…、引つ張らないで下さい…。

あっ、ちょっと抱き着くのもなしですっ…。

き、君っ、助けて下さい…っ！

はい…、ここは逃げるが吉です…っ！

走りますよ…っ！

（暫く二人が走る足音）

（位置二／有声音／息を切らしながら小声）

はあ…、はあ…。

もう駄目…、これ以上は走れません…。

誰も…、ついてきていないですね…。

ふう…。

久しぶりに…、走ったものですから…、足が震えてしまっています…。

君は…？

大丈夫ですか…？

そう…、体力があって羨ましいです…。

（位置二／有声音／小声）

（控え目な笑い）ぷっ…、あはっ…、あははっ！

ああ…、ごめんなさい…。

なんだかおかしくて…。

（位置二／有声音／ゆっくりでボソボソとした小声）

ところで…、ここはどこでしょう…？

必死に走って来たものですから…、見覚えのない場所に…。

あっ…。

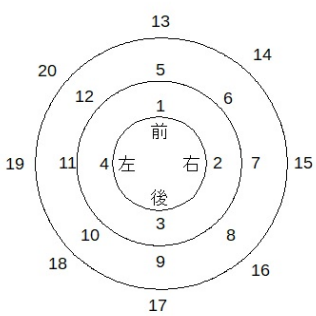
桜…。

そっか…、もうそんな時期だったんですね…。

咲いている桜を見るのは…、何年ぶりでしょう…。

（位置二で辺りを見回しながら／有声音）

わあっ、凄いつ！



見て下さい…っ！

こちらから向こうまで…、ずーっと桜並木が続いていますっ！  
こんな光景が見られるだなんて…。

(位置二／有声音／ゆっくりでボソボソとした小声)

それに…、近所の人や子供たちから…、怖がられなかった…。  
外に出て…、よかった…。

こんな晴れやかな気分…、いつ以来でしょうか…。

いえ…、人生で初めてかもしれせん…。

なにもかも…、君のおかげですね…。

君には感謝しかありません…。

なにかお礼をさせて下さい…。

なにか欲しいもの…、ありませんか…？

え…？

なにも要らない…？

そう…、ですか…。

やはり君は欲張らない…。

偉い偉いですね♪

では…、代わりと言ってはなんですが…。

(位置一／無声音／囁き)

ありがとう…、小さなヒーローさん…。

(頬にキス音) チュッ♪

